

日本初チーム医療の実現で 歯科治療を世界水準に引き上げる

世界水準の歯科治療を実現すべく、2012年に日本初の **interdisciplinary approach** による専門歯科医院グループ「TEAM 東京」を発足しました。

1つのフロアに「審美修復・補綴治療」「歯内治療（根管治療）」「矯正治療」に特化した3つのクリニックを配置して、それぞれの専門医が総合的に診断し、根本的な解決を目指す最先端の歯科治療を実践しています。

歯科の中でも根管治療、矯正治療、口腔外科、修復・補綴治療など多くの専門分野があり、日進月歩の医学の世界では、全部の分野をマルチに極めることは難しくなっています。日本のように一人の歯科医が歯科治療全般を行っているのは、世界の先進国ではあまり例がありません。それぞれの疾患に対し、それぞれの専門医が治療をした方がはるかに成功率が高く、再発することも少ないからです。そういった意味でも、世界から見ると日本の歯科治療は大きく後れを取っています。1992年に独立開業した後も、欧米諸国の最先端の歯科治療を学ぶべく、国内外の学会への参加や大学での研究を続ける中で、アメリカの「チーム・アトランタ」という各分野のスペシャリストが集結して総合的な歯科治療を行うグループの存在を知りました。そうしたチーム医療こそが歯科の理想の形であると考え、これをなんとしても日本で実現しようと思ったのです。1つのクリニックの中でそれをやろうとすると、必ず誰かが上に立たなくてはならず、どうしても立場が対等ではなくなってしまいます。真のチーム歯科医療を実現するために、1つのフロアでそれぞれの専門医が独立開業し、自分たちの担当領域は自分たちで責任をもって遂行するという形にしたかった。しかし、日本では前例がないということで、保健所の開設許可が下りませんでした。でも、なぜこうした形が認められないのか、明確な理由がないのはおかしいのではと思い、保健所に何度も通ってチーム歯科医療の必要性を訴えました。

その原動力となったのは、日本の歯科医療を世界標準に引き上げたいという思いです。日本人は元来手先が器用だと言われる通り、歯科医一人ひとりのテクニックのレベルは決して低くない。全体的なマネージメント構成によって自由度が抑えられているために後れを取っているのだと感じています。その最たるものが保険診療です。保険の中で治療をしようとする、決められたルールの中でしかできません。本当はもっと良い治療法や技術があって、それを実践できるスキルがあるにも関わらず、提供をすることができないのです。もちろん保険に助けられている方も大勢いるので、単純になくせばいいということではありません。ですが反対に「もっと良い歯科治療を受けたいのに受けられない」という方も多いはず。そういった方々の受け皿になりたいと思ったのです。訴え続けた結果、通常の歯科医院の開設であれば1カ月程度で許可が下りるとこ

ろ、半年ほどかかかってようやく許可が下りました。一緒に働いていた歯内治療（根管治療）と矯正治療の専門医とともに、世界水準の先端専門歯科治療を提供する **TEAM 東京** を結成し、ワンフロアにそれぞれの独立したクリニックを配置したチーム歯科医療を実現させました。それから7年になりますが、私たちのチーム歯科医療が少しずつ浸透してきたのか、ここ数年はより高度な治療を求める人たちが急激に増えたと感じています。全国からお問い合わせがあり、予約は4、5カ月先まで埋まっている。やはり潜在的なニーズがあったのだろうと思います。

今後は日本における歯科医療の存在意義について見直しを図り、日本人の歯に対する意識を上げていくことに貢献できたらと考えています。例えば「歯が1本無いてどういうこと？」と日本人に聞くと、たいていの方は「1本くらい無くても大丈夫」と答えるでしょう。しかし、アメリカ人に聞くと「歯が1本無くなるのは、指が1本無くなるに等しい」と言う。それくらい歯に対する価値観の違いがあるのです。アメリカでは歯科治療費が非常に高いため、将来歯が無くならないように、小さい時から予防に力を入れています。日本では高齢になると入れ歯になって当たり前と思う人もいるかもしれませんが、入れ歯にしたらずぐに何でも食べられるようになるわけではありません。うまく噛めるようになるまでには一定期間のリハビリが必要であるため、入れ歯にした途端に **QOL (Quality of Life)** が格段に下がってしまいます。また、日本人の死因の第5位である肺炎もその多くが誤嚥性肺炎すなわちうまく噛めなくなったことが原因で起こる疾患です。健康で長生きをするためにも、より多くの人々に歯の大切さを、もっと真剣に伝えていかななくてはならない局面まできているのです。

私が診療の際に身に着けている白衣の背の部分に、" **Loyalty to Human Being** " と書かれているのですが、これは若くしてアメリカに渡り、長年、歯科技工の技術革新に貢献され今では私達にかかせない Porcelain Fused Metal (PFM) 白いセラミックの歯を世界で初めて開発した桑田正博先生の言葉です。我々医療人は唯一人間を傷つけてもいいという免許を持っている、だからこそ人間に対して忠誠を誓い、医療に対して真摯に取り組むようにという意味です。以前、アメリカ人の歯科医師の友人から「日本の歯科医師は **philosophy** を持っているの？ 持っていないから歯科医界を変えられないんじゃないの？」と言われて大きなショックを受けたことがあるのですが、確かにそうだなと。自分は何のために、何をするのか。

こうした哲学を持っていることがアメリカの歯科医師の意識の強さの理由であり、それくらいの覚悟で仕事をしているのだとわかりました。桑田先生のこの言葉に出会ってからはまさにこの言葉が私にとっての哲学であり、歯科治療を行う上での信条になっています。日本でも自分なりの哲学を持って日々の治療に臨む歯科医師が増えれば、世界に通用する歯科のレベルに到達できるのではないかと考えています。